

## カラフルに輝く環境

(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子  
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2011/9/6

小学校一、二年の女の子が黄色の交通安全帽子をかぶって、黄色のカバーランドセルを背負って下校中で向こうから歩いてくる。ポニーテールに髪をまとめ、今、TVや映画で人気の高い芦田愛菜に似ている。少し笑顔から目の前に来たら、私に「にこっ！」と大きく笑ってすれ違った。面識がなくても「こんにちは」「おはようございます」と挨拶をしてくれる小学生に会ったことは何度かあるが、あの芦田愛菜のような愛くるしいとびきりの笑顔をしてくれたのは始めてだ。私も言葉を出さず嬉しい笑顔で答えた。もしかしたら、TVを良く見ている真似ているのかもしれない。回りを喜ばす何よりの学びを体得しているとしたら、偉い。

9/7

ウォーキングを続けていると幸せいっぱいになる事実さまからのプレゼントを毎日受ける。今日も長雨の後の澄んだ天高い初秋の青空に、ムクムクの真っ白な入道雲。袖なしの白地に濃い紫とエンジの縁取りがしてある涼しそうなワンピースをお揃いで着て、お下げ髪に結った可愛い姉妹が元気な声を出しながら、私の横を駆け抜ける。道の脇の土手にたくさんに咲く、濃いボタン色のおしろい花のうっとりする香り、「ありがとう」。

9/13

地下鉄電車内、座席の前に立った女性の靴を見ると、キラキラと光る砂のようなマニキュアの爪で、右足薬指にリングをはめている。履いている靴は深い海のような藍色のビーズでできていて、銀のTの字のひもだけのサンダル。その女性の隣に立っている女性は藍色のマニキュアに茶色の皮サンダルで、中央にキラキラ輝くビーズでひし形の飾りが付いている。向かいの座席の女性は、シルバーゴールドの網サンダルに真っ赤なマニキュアの足。足の観察だけでインドにいる（訪れたことはないが）錯覚を覚えた。

9/23

自宅を出て白幡神社にさしかかると、前方からグレーのオーディの車がゆっくり走ってきて、止まった。通り過ぎようとする右側のフロントガラスがすーっと下がって、装った左側の運転手の中年女性が、「この辺に藪崎さんてありますか」と私に尋ねた。「近くで見た名前だけど、場所は確かでないので…」「大きなお家なんですけど」（この辺は大きな家が結構建っている）「住所は?」「それがないので…」「あいにくですみません」と失礼すると、すれ違った中高年の女性が呼び止められたのか、「藪崎さん?この辺じゃいっぱいあるわよ」と元気のいい返事が後ろから聞こえた。（えーっ、そんなにあったっけ?）。事実は具体的。次のウォーキングの目的の一つに藪崎さんの表札の家がいくつあるかの課題が生まれた。事実からプレゼントされた尋ね人と自転車のおばさん「ありがとう」。

夫が留守なこともあって、朝食を後回しにしてウォーキングに出る。目的地に近い寺の一つに、毎年山門前の生垣がつつじで真っ赤に染まる寺がある。その寺、安世院の庭にはありとあらゆると言っていいほどの山野草が季節を通して咲き乱れ、訪れるのが楽しみな場所だ。この間はまだ咲き始めたばかりの彼岸花とほととぎすが、もう盛りになった頃と寄ってみる。

その寺の奥さんとはときどき言葉を交わしたことがあるが、今朝は落ち葉を掃除している若いお坊さんに初めて会った。朝の挨拶を交わすと笑顔で「ごゆっくりごらんください」とまだあどけなさが残るほどの若い笑顔で勧めてくれる。お母さんに似て、親切な対応をしてくれたのはお坊さんに成り立ての息子さんに違いない。勧められたとおり、盛りのほととぎすや彼岸花、嫁菜、クロッカス、萩、名前のわからない他のいろいろと咲く花見をゆっくり楽しんだ。お賽銭は毎回5円か10円だったが、今日は奮発して百円玉を投げ入れる。

帰りしな、庭を掃き始めたお坊さんに丁寧にお礼を言って去ろうとすると、ほうきの手を止めて、笑顔を向けてくれたので、「彼岸花がきれいですね」というと、「ええ、今年は裏の山から余計に移植したので、たくさん咲きました」とにこにこ話してくれる。もう二言三言言葉を交わして失礼した。「また、ぜひおいでください」の温かい声を心に抱いて。こんな嬉しいことに出会えるから、ウォーキングは辞められない。寅さんじゃないけど、一生に一度か二度「生きてて良かった」と思えるできごとの一つといえるかもしれない。お賽銭の御利益かしら。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)